

ナイチンゲールの児童向け伝記比較： 昭和前半の書籍を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 麻由美 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1177

ナイチンゲールの児童向け伝記比較―昭和前半の書籍を中心に―

山崎 麻由美¹⁾

日本でフロレンス・ナイチンゲールが女学生向きの雑誌に初めて紹介されたのは明治 20 年といわれている。それ以降、ナイチンゲールの生涯は様々に紹介され、尋常小学校の修身の教科書にも登場し、日本人になじみのある人物になっていく。

昭和に入ると、ナイチンゲールは児童向けの伝記集に「偉い人」という括りで牛若丸、太閤秀吉や乃木大将と一緒に取り上げられるようになる。太平洋戦争終結から児童向きの伝記（伝記全集）の出版は非常に増えるが、彼女はそのラインナップの多くにも名を連ねている。同じ出版社からナイチンゲールの複数の伝記が出版されることや、同一作家が彼女の伝記を再度執筆することもあった。

本発表では、ナイチンゲールが登場する児童書が増えてくる昭和初期から太平洋戦争を挟んで、学習漫画文庫に登場する昭和 34 年を一つの区切りとしてナイチンゲールの児童向け伝記を次の 3 つの観点 ①ナイチンゲールの生涯の描かれ方 ②伝記を書いた作家達の視点 ③伝記の挿絵 で取り上げ論じていく。

そして彼女の生涯の取り上げられ方が時代の流れと共にどのように変化していったか、ナイチンゲールが日本の児童書にとってどのような意味を持っていたのかを考察する。

1) 保健科学部診療放射線学科